

◆JACVSD 入力シート作成支援プログラム (ファイルメーカー・プロ) 配布中

このプログラムは JACVSD ホームページから自由にダウンロードいただけます。
 なお、アップロード機能(データの転送機能)は付いておりません。

動作確認: ファイルメーカープロ ver7.0・ver8.0・ver8.5

用途: 項目画面の印刷用として、入力の練習用として、主治医や術者がファイルメーカーに入力したものを データマネージャーが集め、JACVSD へ登録する時など。

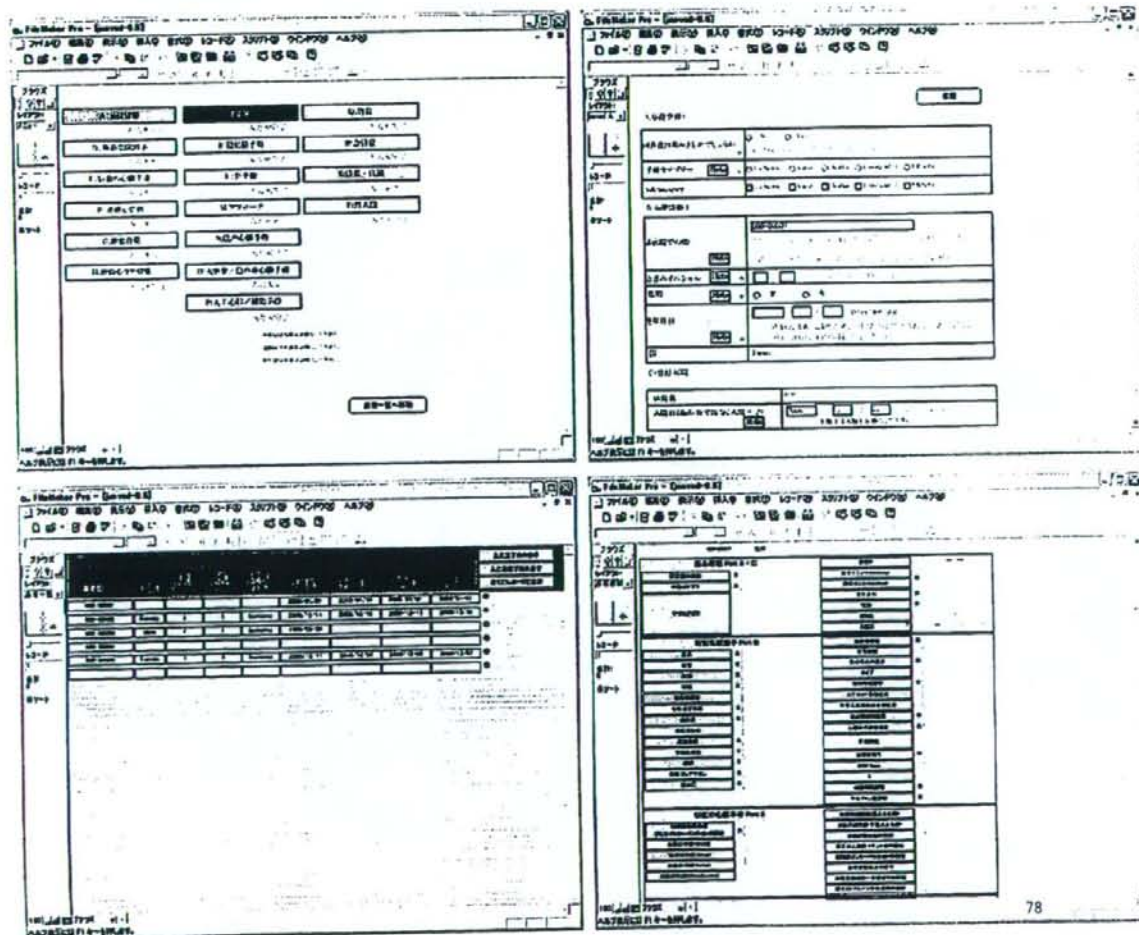
注意!

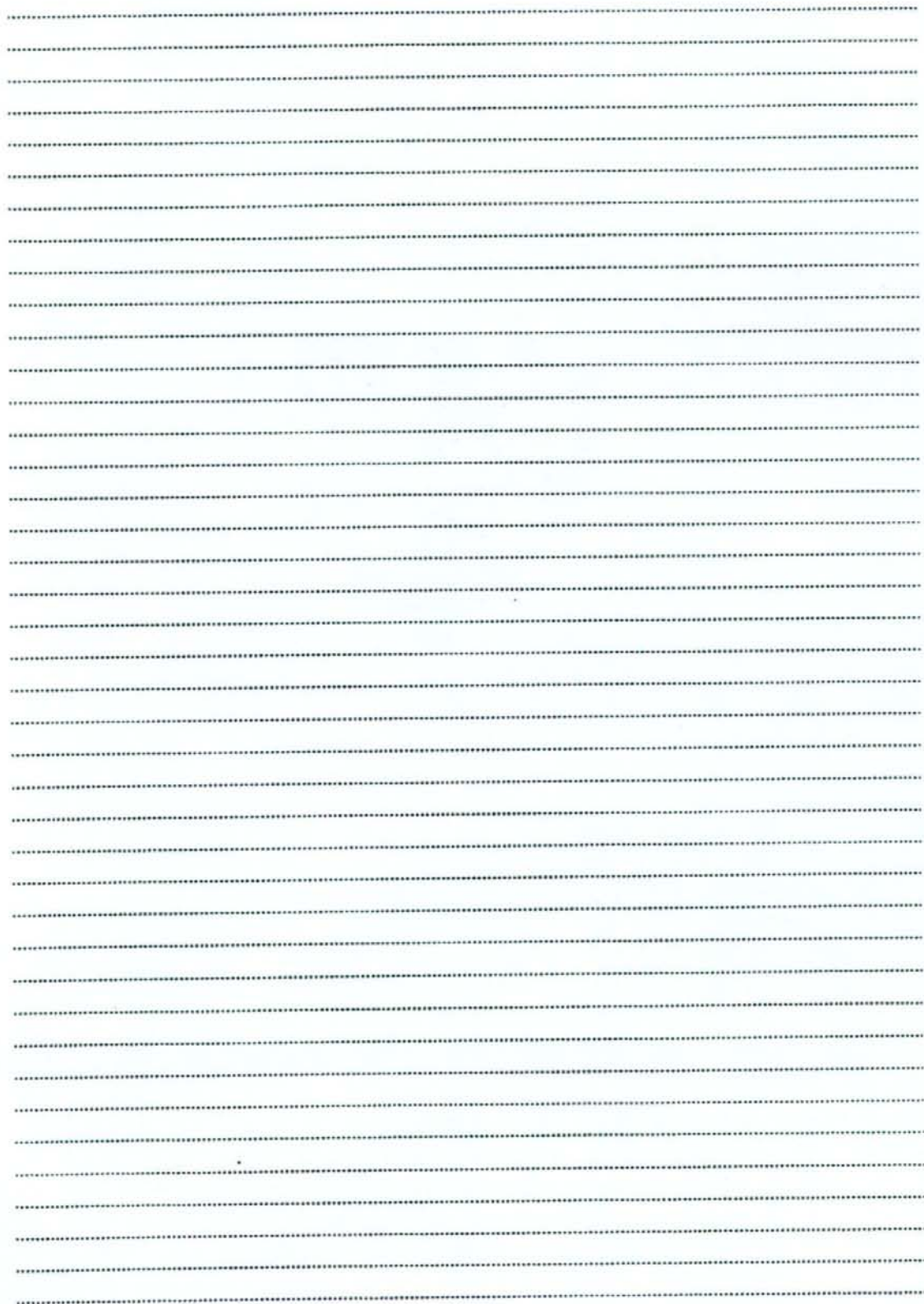
- ・参加施設以外への再配布は行わないでください。
- ・フォームの変更を行う際は、事務局へ御一報ください。
- ・使用により問題が起こった場合、当事務局は責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・何か不具合があった場合は至急事務局へご連絡ください。

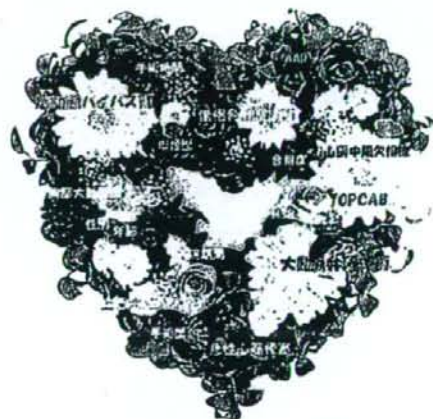
最終更新日:2007年4月13日

JACVSD 入力システム V3と連動して更新が行われます。

入力システム V4に対応したものは、2008年1月より配布が開始されました。







JACVSD 事務局

◆事務局へのお問合せは下記までお願い致します。

〒113-0033 東京都文京区本郷2丁目26番9号 鈴木ビル8階

日本心臓血管外科学会事務局内 日本心臓血管外科手術データベース機構 JACVSD 事務局

E-Mail: jacvsd-adm@umin.ac.jp URL: <http://www.jacvsd.umin.jp/>

高本真一(東京大学) 本村昇(東京大学) 連絡担当: 川原ユカリ(東京大学)

—INDEX—

A. B. C. 基礎情報

D. 術前危険因子

E. 以前の心臓手術

F. 術前心血管症状

G. 術前投薬

H. 術前心カテ情報

J. 手術

K. アプローチ

L. 冠動脈手術

M. 弁手術

N. 胸部大血管手術

O. 他の心臓手術

P. 他の非心臓手術

Q. 人工心肺／補助手段

R. 術後

S. 合併症

T. 結果／成績

U. 再入院

V. 退院時投薬

◆パート A・B・C

A. 基礎情報 1 Administrative

同意書: Yes 同意書取得済み
Notyet 未取得
Reject 同意拒否(入力せず事務局へ報告)

主たる手術手技 Main Procedure: 多種の処置を行った

場合は手術の主目的を(主治医が)選択

CABG 冠動脈手術 →パート H
Valve 弁手術 →パート M
Aorta 胸部大血管手術 →パート N
Congenital 先天性疾患 →パート O
Others 上記以外 →パート O

付随する手術手技 Concomitant Procedure: 多種の処

置を行った場合の従たる手術以外を(主治医が)選択

B. 基礎情報 2 Demographics

貴病院で 病院における患者番号

の ID 個人情報保護のため、ID の入力が見られなかった場合は、連番などを用いる
※1 回の入院で手術を 2 回施行する場合、2 回目の登録時は ID の後に「-2」をつけてください
(同一の患者さんであっても「入院日」が異なる場合

は必要ありません)

患者の 名前をイニシャルで記載
イニシャル 姓、名の順に記載(外国人もこの順)
性別 男・女
生年月日 西暦 年/月/日
個人情報保護のため、日付入力が見許されていない場合は、日付(dd)は「1」を登録してください

C. 基礎情報 3 Hospitalization

病院名 自動入力
入院日 西暦 年/月/日
転科もしくは転棟日ではなく必ず当該病院
入院日を記載すること。

◆パート D

D. 術前危険因子

以下の既往歴、危険因子の記載は登録された症例を公正に評価するうえで重要なので、病歴、他医からの紹介状など全ての情報源を網羅して完全に記載すること。
緊急手術など術前検査を行えなかった症例については主治医の判断にて記載し必ず全項目入力すること。

身長 身長
体重 術前直近の体重が望ましい

肥満	Body Mass Index (W/H ²) >26 であるもの	拡張薬の吸入もしくは内服
喫煙歴	過去に喫煙歴があるものすべて(紙巻き、葉巻、パイプ、刻みタバコ等の種類を問わない)	Moderate 1秒率 50-59% and/or 呼吸器疾患に対するステロイド使用
現在喫煙歴	術前一ヶ月以内に喫煙歴のあるもの	Severe 1秒率 50%以下 and/or Room Airにて PO2<60 もしくは PCO2>50
心疾患家族歴	直系親族のいずれかが 55 歳未満で(狭心症・心筋梗塞・原因不明の突然心臓死)の履歴	免疫抑制剤の使用 ※「慢性呼吸障害」が[no]以外の時、入力術前 30 日以内にステロイドをはじめとする免疫抑制剤の全身性投与を行った既往。一回投与、局所投与、噴霧剤は除く
糖尿病	病歴期間に関わらず糖尿病の既往	心臓外の血管病変 胸部大動脈末梢血管(腹部大動脈含む)
糖尿病治療	・食事療法のみ ・経口糖尿病治療内服 ・インスリン注射使用者	If yes ※心臓外の血管病変が[yes]の時、入力・胸部大動脈・末梢血管(腹部大動脈含む)
高脂血症の既往	高脂血症(・TC>200・LDL>130・HDL<30・入院時 TC>200mg/dl)の既往のあるもの	脳障害の既往 No
腎機能障害の既往	過去にクレアチニン>2.0mg/dl の既往のあるもの、あるいは腎機能障害、腎不全と記載された既往	TIA 24 時間以内に消失した中枢神経障害の既往
慢性透析	人工透析、腹膜透析施行中のもの	RIND 72 時間以内に消失した中枢神経障害の既往
術前クレアチニン値	術前直近の血清クレアチニン値	CVA 中枢神経障害が 72 時間以上持続したもの
高血圧の既往	高血圧症(・高血圧症の診断のもとに降圧剤の投与、減量、運動療法を行った既往・収縮期 140mmHg 以上もしくは拡張期 90mmHg 以上が最低2回以上記録された・現在降圧剤を内服中)の既往	COMA 24 時間以上持続した昏睡
感染性心内膜炎(IE)	感染による弁膜病変が存在するもの 血液培養陽性、エコーでの Vegetation, IE の既往	If yes ※「脳障害の既往」が[no]以外の時、入力・Recent(<=2w)・Remote(>2w)発生時期が2週間以内か以上か
Infectious Endocarditis Type	Active: 感染性心内膜炎として手術施行時に治療を受けていたもの。すなわち手術施行時に感染性心内膜炎の治療目的で抗生物質の投与を受けていたもの。発熱、炎症所見の有無などは問わない Treated: 手術時に感染予防目的以外の抗生物質投与を受けていないものを、臨床的に治癒した感染性心内膜炎と判断	精神神経障害の既往 現時点で治療中、治療を要する、あるいは自立不可能な認知症、気分障害や統合失調症
慢性呼吸障害	No 肺機能正常 Mild 1秒率 60-75% and/or 気管支	特殊合併疾患 ・マルファン症候群・大動脈炎・川崎病・ベージェット・そのほかの膠原病・皮切部位の皮膚病変・グラフト感染・弁輪部膿瘍・悪性新生物・肝硬変(child B 以上)・左房血栓
		頸動脈病変の既往 No・片側・両側 (Non Invasive >=75%)
		肝機能障害 肝硬変または逸脱酵素が 100 以上、またはトータルビリルビンが 1.5 以上

If yes ※「肝機能障害」が[Yes]の時、入力
 24時間以内 GCS※1で8点以下
 の意識障害 術前24時間以内で最も重篤な状態

※1 GCS(Glasgow Coma Scale)記述は、
 「E点、V点、M点、合計点」と表現される。
 正常は15点満点で深昏睡は3点。点数は小さいほど重症である

開眼機能(Eye Opening)「E」
 4点:自発的に、または普通の呼びかけで開眼
 3点:強く呼びかけると開眼
 2点:痛み刺激で開眼
 1点:痛み刺激でも開眼しない

言語機能(Verbal response)「V」(挿管時は1点)
 5点:見当識が保たれている
 4点:会話は成立するが見当識が混乱
 3点:発語はみられるが会話は成立しない
 2点:意味のない発声
 1点:発語みられず

運動機能(Motor response)「M」
 6点:命令に従って四肢を動かす
 5点:痛み刺激に対して手で払いのける
 4点:指への痛み刺激に対して四肢を引っ込める
 3点:痛み刺激に対して緩徐な屈伸運動
 2点:痛み刺激に対して緩徐な伸展運動
 1点:運動見られず

◆パートE

E. 以前の心臓手術

以前の心臓手術の既往 心臓手術の既往
 末梢血管手術の既往、経皮的動脈ステント術の既往、冠動脈インターベンションの既往は含まれません

※【Yes】の時(1)と(2)を入力してください。
 【No】の時、(2)のみ入力してください。

(1)

以前の手術名 CABG 冠動脈バイパス術(off pump, on pump を問わない)

※以前の心臓手術の既往がYesの時のみ入力
 Valve 弁膜症手術
 Aortic 大動脈手術(胸部大動脈、胸腹部大動脈、腹部大動脈のいずれも含む)
 Other 上記以外の心臓手術

Cardiac/Congenital

以前の手術回数 人工心肺を要した手術の数:
 人工心肺を要しなかった手術の数:
 Cardiac Operation に該当する手術の内、体外循環を必要としたもの、及び必要としなかった手術の施行数をそれぞれ記載する

(2)

末梢血管手術 今回入院時も含めた腹部大動脈含むの既往 末梢血管手術の既往

経皮的動脈ステント術の既往 今回入院時も含めた経皮的動脈ステント術の既往

冠動脈インターベンションの既往 今回入院時も含めた冠動脈インターベンションの既往の有無

Intervention の既往の有無

◆パートF

F. Pre Operative Cardiac Status

心筋梗塞 過去に心筋梗塞の診断を受けたもの、以下の下記の条件のうち2つ以上に該当するものを心筋梗塞とする

●安静もしくは亜硝酸剤の投与にても消失しない20分以上持続する胸痛

●CK-MBがTotal CKの5%を超える、CKが正常上限の2倍を超える、LDH isozyme subtype1>subtype2、トロポニン陽性あるいは正常値を超える、のいずれかの血中酵素上昇を認める

●新たに出現した壁運動異常

●連続する2つ以上の誘導で ST-T 変化を認める、またはもしくは連続する2つ以上の誘導でQ波(幅 0.03 秒以上 and / or QRS complex の 1/3 以上の深さを有する)を認める

I Know No/Yes

when

if yes Yes の場合、発生時期を選択

When -6h / 6-24h / 1-7day / 8-14day / 14-21day / 21day-

鬱血性心不全 術前2週間以内に下記の症状により心不全と診断されたもの

●発作性夜間呼吸困難

●心不全による労作時呼吸困難

●胸部レントゲン写真による肺鬱血所見

(利尿剤、もしくはジゴシンの投与を伴わない下肢浮腫、呼吸困難の存在は心不全とみなさない)

狭心症 狭心症が認められるもの

Type Stable: 経口、経皮薬で安定してコントロールされている狭心症

※「狭心症」が「yes」の時、入力 Unstable: ICU 入室、亜硝酸剤の点滴静注を要するもの、または下記の Unstable Type のいずれかに該当するもの

Unstable Type Rest Angina: 20分以上持続する安静時胸痛
New Class3: 最近2ヶ月以内に CCS class III

狭心症(日常生活が著しく制限される狭心症、数十mの歩行、階段で1階登ると狭心症上の出現する)が発生したもの

※狭心症 Type が Unstable の時のみ下記

Unstable type より1つだけ選択 Variant: 異型狭心症による症状出現

Non-Q: non Q MI の発生

Post-Infarct Angina: 急性心筋梗塞発症後

24 時間以上続く梗塞後狭心症

心原性ショック 手術施行時に下記のいずれかの状況で臨床的に循環不全と判断されるもの

Refractory Shock: 最大限の治療にても収縮期血圧 <80mmHg and/or 心係数<1.8 l/min/m²

Hemodynamic Instability: 収縮期血圧>80mmHg、心係数 >1.8 l/min/m² を保つために強心剤や亜硝酸剤等の点滴 and/or IABP が必要

心蘇生の既往 手術開始前1時間以内に心肺蘇生を要したもの

不整脈の既往 術前2週間以内に下記のうちいずれかの不整脈を認めたもの

Type Sust VT or VF: cardioversion もしくは amiodarone の

※不整脈の既往が Yes の時入力 静注を必要とした sustained VT or Vf

CAVB(complete Atrioventricular Block):

完全房室ブロック

Af or AF:

治療を要した Atrial Fibrillation or Atrial

Flutter

Others

Classification:

CCS: (Canadian Cardiovascular Society Classification) 入院もしくは intervention に至った最大の分類を選択する

0 狭心症症状を認めないもの、

I 歩行、階段昇降などの通常の労作で狭心症症状を生じないもの、激しい、長時間の労作にて狭心症症状が生じるもの、

II 日常生活に軽度の制限があるもの、急いで歩いたり、階段を登ったり、坂を登ったり、食後や寒いとき、風の中、感情的なストレスを伴っての歩行、階段昇降、2ブロック以上の平地歩行、通常の歩調で階段一続き以上登る、などで狭心症症状の生じるもの、

III 日常生活に著明な制限があるもの、平地 1.2 ブロックの歩行、通常の歩調で階段一続き登るなどで狭心症症状の生じるもの、

IV 症状を伴わずに日常生活が全く行えないもの、もしくは安静時に狭心症症状を認めるもの、

NYHA: (New York Heart Association Class)入院時もしくは手術直前に診断する

- I 心疾患はあるが、身体活動に制限がないもの。普通の運動では特別な疲労感、動悸、呼吸困難、あるいは狭心痛を認めないもの。
 - II 軽度の運動制限があるもの。安静時は異常ないが、日常の体動で上記の症状を認めるもの。
 - III 著明な運動制限があるもの。安静時は異常ないが、日常以下の体動で上記の症状を認めるもの。
 - IV 安静時にも上記の症状を認めるもの。
- N/A 心疾患のないものなど、判定にそぐわないもの。

◆パート G

G. 術前投薬

術前に薬物投与を受けていたもの全て

術前 24 時間以内投与 Coumadin (ワーファリン)

内に投与 ステロイド
スタチン
ACE Inhibitors
ARB
t-PA
UK (Vrokinase)
Digitalis

Beta Blockers

Nitrates (iv)

術前 48 時間以内投与 Anticoagulants (ワーファリン以外)

内に投与 Inotropic Agents

術前 5 日以内に Aspirin

投与 Antiplatelets other than aspirin

◆パート H

H. 術前心カテ情報

Preop. Cath. No/Yes

was done?

No. of Diseased None / One / Two / Three

Coronary 冠動脈造影のいずれかの view にて

Vessels 50%以上の狭窄を認める major coronary system の数を記載する。

※「Preop. Cath. was done?」が「yes」の時、入力
ただし左冠動脈主幹部の 50%以上の狭窄は2枝病変に相当する。すなわち LMT+RCA は3枝病変に相当する

Left Main 左冠動脈主幹部に 50%以上の狭窄

Disease > 50% を認めるもの

LV function (by good / medium / bad

any method) good >EF60%, bad <EF30%

Hemodynamic 手術もしくはintervention直近の左室

Data EF(%) 駆出率の値を記載

Method: 左室駆出率を測定した手段を選択し記載する

LV gram 左室造影所見より左室駆出率を計算したものの

ECHO 心臓超音波検査にて左室駆出率を測定したものの

Radionuclide シンチグラムにて左室駆出率を測定したものの

Estimate 左室駆出率を実測していないものは主治医の主観によりおおよその値を記載する

Others: その他に得られた測定値より左室駆出率を計算したもの (CT, MRI など)

PA Systolic Pressure	mmHg: 収縮期肺動脈圧
PA Mean Pressure	mmHg: 平均肺動脈圧
Peak Aortic Valve Gradient	mmHg: 大動脈弁最大圧較差
※いずれの圧も測定方法を問わないが麻酔導入後の値は認めない。未測定の場合は空欄可。	

Aortic Stenosis	No Yes	valve area : cm2	Insufficie ncy	0 / I / II / III / IV
Mitral Stenosis	No Yes	valve area : cm2	Insufficie ncy	0 / I / II / III / IV
Tricuspid Stenosis	No Yes		Insufficie ncy	0 / I / II / III / IV
Pulmonary Stenosis	No Yes		Insufficie ncy	0 / I / II / III / IV
※診断の方法は問わないが手術直近における術前診断を選択し記載する。				

◆パート J

J. Operative

手術日	西暦 年/月/日
術者	心臓血管外科学会会員番号と 性/名をローマ字で入力
第一助手	※2
助手	
助手	
指導的助手	
手術時間	時間/分
緊急度	Elective: 下記の Urgent, Emergent, Salvage のいずれにも含まれない手術 Urgent: 手術決定後 24 時間以内に手術 が開始された手術 Emergent: 手術が直ちに開始されたも の Salvage: 手術室搬送時もしくは手術室 内にて麻酔導入以前に心肺蘇生を要し たもの
if checked	AMI / Worsening CP/ CHF / Anatomy
Urgent	USA / Rest Angina / IABP / Valve
※「緊急度」が 【Urgent】の時、 入力	related Aorta related / Others
if checked	Shock Circ Support / Shock No Circ
Emergent	Support / Pulm Edema / AEMI /
※「緊急度」が 【Emergent】の 時、入力	Ongoing Ischemia / Valve related / Aorta related / Others

※2

「術者」とは、手術名に示された手術の主要な部分を実際に行った者である。「助手」とは、手術の大部分を第 1 助手～第 3 助手として手術に参加した者である。

「指導」とは、手術の適応決定、および術式決定、あるいは手術の実施(従事)において、実質的な責任者として指示を出すことである。なお、手術の主要部分に対して助手として手術に参加していなければならない。

(日本外科学会「外科専門医」修練カリキュラム 6P を参考)

◆パートK

K. アプローチ

Port Access No:
Completed:
Not completed:

Partial No:

Sternotomy Completed:
Not completed:

◆パートL

L. 冠動脈手術

CABG 冠動脈バイパス術を施行したもの
予期しなかつた CABG 冠動脈造影もしくは
PTCA, STENT, Atherectomy などの
intervention に引き続き、これが原因となつて
予定外の手術を施行したもの
=angiographic or interventional accident
典型的には虚血の進行、最大限の治療に
抵抗する安静時狭心症、挿管を要する肺
水腫の存在、ショックなどによるもの。
Valve、Aorta などがメインの際に予期せぬ
バイパス術を行った場合も含む。

Used-Grafts

※Harvest は“使用”ではなく“採取”

※吻合冠動脈の位置を示す Segment No.ではなく、末梢
側吻合数を記入

LITA-Seg3-LAD sequential anastomosis は LITA を LAD
に2箇所吻合。LITA-RA-(OM and PL) のような
T-grafting の場合には Radial を LCx に2カ所吻合。

Number of Harvest	LAD	Dx	LCx	RCA
-------------------	-----	----	-----	-----

LITA	___	___	___	___
RITA	___	___	___	___
Rt	___	___	___	___

Radial

Lt	___	___	___	___	___
Radial					
GEA	___	___	___	___	___
SVG	___	___	___	___	___
Others	___	___	___	___	___

上行 Aorta 操作

- Non Touch
- Cross Clamp
- Side Clamp
- Suture Device

手術開始皮切時に off pump を意図した

- No
- Yes

If yes

- Complete
- Converted

※「手術開始皮切時に off pump を意図した」が [yes]の時、入力

If converted

- Exposure/visualization
- Bleeding
- Inadequate size and/or diffuse disease of distal vessel
- Hemodynamic instability
- Conduit quality and/or trauma
- Other

※「if yes」が [converted]の時、入力

IMA の使用

- 左 IMA
- 右 IMA
- 使用なし(採取したが使用しなかった場合も)

◆パート M

M. 弁手術

Valve Surgery 弁手術を施行したもの

Rheumatic Heart

Disease

それぞれの弁に行った処置を下記の選択肢より選択し記載する。複数選択可。

Aortic	Mitral	Tricuspid	Pulmonic
No	No	No	No
Replacement	Annuloplasty only	Annuloplasty only	Replacement
Repair / Reconstruction	Replacement	Replacement	Reconstruction
Root Reconstruction	Reconstruction w/ Annuloplasty	Reconstruction w/ Annuloplasty	
Conduit Reconstruction w/ Valve	Reconstruction w/out Annuloplasty	Reconstruction w/out Annuloplasty	
Sparing	Annuloplasty	Annuloplasty	
Resuspension	Valvectomy	Valvectomy	
Aortic Valve Resection			
Sub-Aortic Stenosis			
弁輪拡大			

人工弁	Prosthesis Name	Size
Aortic Prosthesis:	それぞれの弁に挿入した人工物についてリストより選択 ※3	_mm
Mitral Prosthesis:		_mm

R

Tricuspid None M _mm

Prosthesis: B H A

R

Pulmonary None M _mm

Prosthesis: B H A

R

M=Mechanical, B=Bioprosthesis, H=Homograft,

A=Autograft, R=Ring

※3 Valve Key

ホームページ参照

◆パート N

N. 胸部大血管手術

Thoracic aortic surgery 胸部大血管手術

Aortic Aneurysm Type

Dissection

True

Pseudoaneurysm

if it is Dissection Phase of Dissection

※「Aortic Aneurysm Type」が【Dissection】の時、入力

Acute (<=2w) 発症時期が手術開始2週間以内

Sudacute (>2w) 発症時期が手術開始2週間を越える

Chronic (>2M) 発症から手術までが2ヶ月を越える

Dissection Type

※「Aortic Aneurysm Type」が【Dissection】の時、入力

大動脈解離を存在する場合にいずれにあたるか選択

Stanford A 解離腔が上行大動脈に存在するもの

(逆行性解離も含む)

Aortic Stent Graft 大動脈内にステントを留置したもの
 No ステントを使用していないもの
 Operative 手術施行時に同時にもしくはステント挿入を目的とした手術において直視下にステント挿入を行ったもの
 Percutaneous 経皮的に Stent Delivery System を用いて大動脈ステントを挿入したもの
 Stanford B 解離腔が上行大動脈に存在しないもの

術前 CT 所見(エコーを除く)

最も状態が悪い部分で判断する。

上行	1. 中内	2. 内膜に	3. 内膜	4. 内膜の剥	5. CT に
弓部	膜の肥	肥厚は	の状態	離が「いか	よる評価
下行	厚なし	みられる	が不整	にも飛びそ	を行って
腹部		が表面		う」「遊離す	いない
腸骨動		は平滑		る」「モバイ	
脈		である		ルなど」の	状態である

Thoracic aortic surgery における体外循環の方法
 Percutaneous

・Total バイパス(自己心拍出を残さないもの)
 ・Partial バイパス(自己心拍出を残したもの)
 弓部(Proximal descending を含む)
 /下行/上行/腹部/None

Op Indication

手術適応とした最大の理由を1つだけ選択する

Dissection Stanford type A のように大動脈解離の存在そのものが手術適応と判断されたもの
 Dilatation 大動脈の(急性期、亜急性期、慢性期)瘤径拡張が手術適応判断されたもの
 Rupture 大動脈破裂が手術適応と判断されたもの(血管外への血液の噴出、リークが認められたもの。心タンポナーデも含む)
 Malperfusion 合併症としての大動脈分枝の血流不全出現が手術適応と判断されたもの
 Embolism 大動脈瘤に伴って引き起こされた塞栓症

状が手術適応と判断されたもの

Other 上記以外の理由で手術適応と判断されたものの

Range of Replacement (indicate all)

下記の大動脈 segment のうち人工血管置換、パッチ形成など手術操作を加えた部位のすべてを選択

Root Valsalva Sinus を含む大動脈基部
 Ascending 上行大動脈(Sinotubular Junction からInnominate Artery 分岐部まで)
 Arch 大動脈弓部(Innominate Artery 分岐部よりIts subclavian artery まで)
 Distal Aorta (Proximal Descending) 遠位弓部(近位下行), (Its subclavian artery より Ductus Arteriosus まで)
 Descending 側方開胸のみによってアプローチできる範囲の下行大動脈(Ductus Arteriosus より横隔膜大動脈裂口まで)
 Thoracoabdominal 横隔膜切開を必要とする範囲の下行大動脈(横隔膜大動脈裂口より Renal Artery まで)
 Abdominal 腎動脈以遠の腹部大動脈
 N/A

◆パート O

O. 他の心臓手術
他の心臓手術

LV Procedure
左室切開を伴う手術(LVトミーを伴うもの)

If yes	Dor	Myoplasty
※「LV	SAVE	Others
Procedure 左室	Batista	
切開を伴う手術	Over-Lapping	
が【yes】の時、入	心筋切除	
力	心筋切開	
	Others	
If yes	HCM	◆パート P
※「LV	HOCM	P. 他の非心臓手術
Procedure 左室	DCM	Other Non Cardiac
切開を伴う手術	Aneurysm	心臓以外の手術の既往
が【yes】の時、入		Procedures
力		
LV Rupture		頸動脈内膜摘除
repair		肺移植
VSP Closure		Other
Congenital	先天性心疾患	
If yes	ASD repair	
※「Congenital」	VSD repair	◆パート Q
が【yes】の時、入	Other congenital repair	Q. 人工心臓補助手段
力		人工心臓の使用 右心バイパス、左心バイパスを問わ
Arrhythmia		ず体外循環を施行したか否か
Correction		※【Yes】の時以下を入力、【No】の時、(2)のみ入力してください。
Surgery		(1)
If yes	Full Maze	心停止 大動脈遮断手段を選択
※「Arrhythmia	左房 Maze	手段 Cross-clamp / Non-clamp / Balloon Occlusion
Correction	PV isolation	心停止 心停止した時間を記載
Surgery」	WPW に対する手術	時間
が【yes】の時、入	心室性頻拍に対する手術	人工心 体外循環時間を記載。体外循環を使用してい
力	Others	肺時間 なければ 0min を記入する。通常の体外循環
Others	Trauma	離脱不能などの理由で補助循環に移行したの
	移植	ちの補助循環時間時間や、もしくは術前よりの
	Myxoma	補助循環にかかる時間は除外
	Other Tumor	最低体 体外循環施行中の最低中枢温を記載。中枢温
	Constrictive Pericarditis(収縮性心膜炎)	温 度は直腸温、膀胱温、鼻咽頭温、鼓膜温など
	Autom Impl Cardioverter Defibrillator	いずれでもかまわないが脳分離体外循環時の
	Epicardial Pacemaker	鼻咽頭温、鼓膜温は除外
	Permanent Pacemaker	心筋保 主に心停止の維持目的で使用した心筋保護液
	Transmyocardial Laser	護 の種類を記載する。Crystalloid で心停止、維

	入院中に発症したものはすべて含む	Perioperative MI	周術期心筋梗塞 (下記の4項目のうち2項目を満たすものを周術期心筋梗塞とする) ●安静もしくは亜硝酸剤の投与にても消失しない20分以上持続する胸痛 ●CK-MBがTotal CKの5%を超える、CKが正常上限の2倍を超える、LDH isozyme subtype1>subtype2、トロポニン陽性あるいは正常値を超える、のいずれかの血中酵素上昇を認める ●新たに出現した壁運動異常 ●連続する2つ以上の誘導でST-T変化を認める、またはもしくは連続する2つ以上の誘導でQ波(幅0.03秒以上、QRS complexの1/3以上の深さを有する)を認める
再手術		Heart Block	退院前に新たにペースメーカー植え込みを要した房室ブロックの発生
出血	再手術を要した出血性合併症	Cardiac Arrest	以下のいずれかを認めたもの ●心室細動 ●循環動態が不安定となる心室性頻拍 ●asystole
弁機能不全	再手術を要した弁機能異常	Anticoagulant Complication	出血、血栓塞栓症など抗凝固療法に由来する合併症
グラフト閉塞	再手術を要した冠動脈グラフト閉塞	Tamponade	処置(手術、穿刺など)を要したタンポナーデの発症
他の心臓障害	その他の心臓に関する理由により再手術を要したもの	Gastro-Intestinal Complication	術後に発生した消化管合併症の有無 ●輸血を要した消化管出血 ●アミラーゼ、リパーゼの上昇を認め絶食を要した膵炎 ●手術もしくはドレナージを要した胆嚢炎 ●開腹を必要とした腸管虚血 ●もしくはその他
他の非心臓障害	心臓以外の理由により再手術を要したもの	Multi-System Failure	2つ以上の主要臓器機能障害を発症したものの
Reoperation for Re-suture of Sternum	同一入院中に胸骨再固定のために再手術となったもの	Atrial	術後新たに発生し治療を要した心房細
Neurologic			
Stroke	術後新たに発生した中枢神経障害が72時間以上持続したもの		
Transient	一過性の中枢神経障害(TIA, RIND, delirium)を発生したもの		
Continuous Coma >=24H	術後新たに24時間以上持続した昏睡が発生したもの		
Paraplegia / Paraparesis	術後新たに完全麻痺、不全麻痺を問わない対麻痺が発生したもの		
Renal			
Renal Failure	術後急性腎機能障害が出現し以下のいずれかを満たしたもの ●術後血清クレアチニン値が2.0mg/dlを超えたもの ●術前血清クレアチニン値の50%以上の上昇 ●術後新たに血液透析もしくは腹膜透析を要したもの		
Dialysis Required(Newly)	術後新たに血液透析もしくは腹膜透析を要したもの		
Other			

Fibrillation	動。術前より心房細動を認めていたものは含まない	Pneumonia	以下のいずれかの所見により肺炎と診断されたもの(喀痰、血液、胸腔内浸出液、気管内分泌物などの細菌培養陽性で肺炎の臨床兆候を示すか、胸写で浸潤陰影を認めたもの)
Infection		Vascular	
Deep	感染が縦隔組織(筋層、胸骨、縦隔)に及んだもので以下のいずれかを満たすもの	Aortic	術後いずれかの部分で新たな大動脈解離が発生したもの
Sternum	●創開放および組織の切除もしくは洗浄、ドレナージを必要としたもの	Dissection	腸骨、大腿動脈領域における新たに発生した動脈解離を認めたもの
Thoracotomy	●培養所見が陽性であったもの	Iliac /	
	●抗生物質の投与を必要としたもの	Femoral	
	感染が胸腔内組織(胸腔および傍胸骨部位)に及んだもので以下のいずれかを満たすもの	Dissection	
	●創開放および組織の切除もしくは洗浄、ドレナージを必要としたもの	Acute Limb	下肢虚血による何らかの合併症が発生したもの
	●培養所見が陽性であったもの	Ischemia	
	●抗生物質の投与を必要としたもの		
Leg	特に下肢静脈採取部の感染で以下のいずれかを満たすもの	◆パート	
	●創開放および組織の切除もしくは洗浄、ドレナージを必要としたもの	T. 結果/成績	
	●培養所見が陽性であったもの	退院日	西暦 年/月/日
	●抗生物質の投与を必要としたもの		転科、転棟日は記載しないこと
Septicemia	血液培養陽性所見を伴う術後敗血症を認めたもの	退院時	Alive / Dead
Urinary Tract	尿培養陽性であった術後尿路感染症を認めたもの	退院時全身状態	severely compromised : Modified Rankin scale grade 5
Pulmonary			moderately compromised :
Prolonged	ARDS、肺水腫、肺炎などの肺に由来する合併症併発により人工呼吸器管理が遷延したもの		Modified Rankin scale grade 4
Ventilation	No		not affected : Modified Rankin scale grade 0-3 ※4
	Yes(24hを超え、72h未満)	手術30日後状態	Alive / Dead
	Yes(72h以上)		入院中、退院後に関わらず、術後30日目の状態を記載する
Pulmonary Embolism	肺血流シンテグラムや血管造影などで術後肺塞栓症の術後発症が診断されたもの	If Alive	Home
		※「手術30日後状態」が	My hospital
		【Alive】の時、入力	Other hospital
			Others
		死亡日	西暦 年/月/日
		死亡場所	OR / Hospital / Home / Other
			死亡した場所を記載する

死因 下記のうち主要な死因(最終的に死亡に至らしめた理由のうち最も最初に発生した事象)を一つだけ選択する。複数選択は認めない。

Cardiac(LOS / Arrhythmia) /
Neurological / Renal / Vascular /
Infection / Pulmonary / Bleeding /
Other

Incision Complication
MI/Recurrent Angina
Pericardial
Effusion/Tamponade
Pneumonia
Respiratory Complication
Valve Dysfunction
Other

手術死亡 下記のいずれか

- 術後生存期間に関わらず入院中の死亡
- 入退院に関わらず術後 30 日以内に死亡したものすべて(死因が明らかに手術と関連しない場合は除く)

◆パート V

V. 退院時投薬

ADP Inhibitors
(バナルジン, プラビックス)
Aspirin

Other Antiplatelets

ACE-Inhibitors

Beta Blockers

Statin

Goumadin(ワーファリン)

Antiarrhythmics

※4 Modified Rankin scale

Grade 0	no symptoms
Grade 1	no significant disability, despite symptoms; able to perform all usual duties and activities
Grade 2	slight disability; unable to perform all previous activities but able to look after own affairs without assistance
Grade 3	moderate disability; requires some help, but able to walk without assistance
Grade 4	moderately severe disability; unable to walk without assistance and unable to attend to own bodily needs without assistance
Grade 5	Severe disability; bedridden, incontinent, and requires constant nursing care and attention

◆パート U

U. 再入院

手術後 30 日
以内の再入
院

再入院理由 Anticoagulant Control
Arrhythmias
CHF

2007年 第2回 Site Visit 報告書

訪問施設： センター
(2006年 完了) A・B・C)
〒
TEL:
日時： 平成19年5月10日 午前9時～午後5時
訪問者： 月原 弘之 (JACVSD・WG-SiteVisit)
大谷 則史 (新日鐵室蘭総合病院・WG-SiteVisit)
山本 裕之 (鹿児島大学・WG-SiteVisit)
縄田 寛 (東京大学・DM)
川原 ユカリ (JACVSD)
訪問部署： 9F講義室
所属部責任者： 先生
データマネージャー： 先生

1. Data Cleaning

Site Visit に先立ち Data Cleaning を行った (2007/5/1).

2007/4/25 までに 2006 年分までで 1066 件の入力があった。

Data Cleaning は 2006 年の 307 例, および 2005 年以前に入力のあった全死亡例の計を対象とした。

表 1. 症例数の詳細

2007/4/25 までの全登録数	2003 年	148	1066 件
	2004 年	281	
	2005 年	330	
	2006 年	307	
	未入力・日付エラー	0	
2006 年カテゴリー別登録数	Ischemic	85	27.7 %
	Valve	149	48.5 %
	Aorta	59	19.2 %
	Congenital+Others	14	4.6 %

表 2. Data Cleaning 対象

データクリーニング対象データ (2007/3/19 時点入力データ中の 2006 年症例および全死亡症例)	2006 年生存例	306	306 件
	2004 年以前死亡例		
	2005 年死亡例		
	2006 年死亡例		

表 3. エラー項目リスト

パート	項目	状態	エラー数	JACVSD ID
A	手術カテゴリー	不一致	7	11467 28552 28974 36420 43906 39784 49423
B	生年月日	不正値	5	20191 27865 32620 37244 51504
P	CNS Protection Type	未入力	1	99907368
P	If yes When Inserted	未入力	1	99910619
Q	Blood When	未入力	5	99909954 99910619 99908127 99907364 99907368